

先日ABさんと名古屋で熱い夜を過ごしてきた松本です。寒くなってきましたね。牛さんたちは風邪なんか引いていませんか？1ヶ月が立つのって本当に早いんですよね。もうすぐ来年ですよ。今年の汚れ、今年のうちに、ということで、牛小屋の天井のすす払いもやっちゃいましょうね。病気がうんと減りますよ。

導入時の注意

さて、やっとの思いで導入した子牛たちです。精一杯育てて、肉質も増体もよい肥育牛に仕上げなくてははいけません。そのためには導入時点でのつまずきは絶対避けたいところです。まずは導入時点では、子牛にどのようなことが起こっているか、から考えてみましょう。

導入した子牛は、ついこの前までお母さんや仲間たちと一緒にいました。それが、いきなり住み慣れたわが家から引き離されてセリ市場に連れて行かれ、その後またもやトラックに乗せられて肥育農場へやってきます。いったい何が起こっているのか、これからどうなるのか、全く解らないうちに新しい仲間と一緒に部屋に入れられます。

みなさんだったらいかがですか？いっぱいストレスを受けちゃいそうでしょ？子牛だってそうなんです。なりは大きいけど、生まれてまだたかだか9ヶ月の子供ですからね。故郷を離れるストレス、輸送によるストレス、導入後の群れを作るときのストレス、など、たくさんのストレスを受けます。とくに群れを作るストレスというのは大きいんです。

導入のストレスで何が起こるかという、まず免疫が落ちこちます。導入後すぐに免疫が下がり始めて、導入後2週間くらいで最低のレベルになります。その後少しずつ回復しますが、導入後3週間たっても、まだ導入前のレベルには回復しきれないくらいです。導入した翌日は疲れもあるから、このころが一番風邪なんか引きそうだけど、あんましその頃は風邪を引かないで、疲れもとれたはずの導入後10日から2週間くらいの時期がもっとも風邪ひきが増える、なんてこと、みなさんも経験があるでしょ？

また、免疫の低下と同じようにストレスで血液の中のビタミンAも低下します。最近では、自分の農場の牛を定期的に採血して、血液中のビタミンAを測定する方も増えていますが、導入後2～3週間はストレスによる血中ビタミンAレベルの低下が起こっているわけですから、そんな時期にビタミンAを測定すると、間違った情報に基づいてその後のコントロールをすることにもなりかねません。そういうわけで、導入時のビタミンAの検査は導入直後か、ストレスの落ち着いた1ヶ月後あたりにするのがよいと思います。免疫も下がるは、ビタミンAも下がるは、これでは相乗効果で肺炎やヘモフィルスみたいな伝染病にかかってくださいと言ってるようなものです。

導入時の免疫を低下させるもう一つの原因は寄生虫です。寄生虫の多くは消化管、つまり胃袋や腸に寄生します。実は、免疫のコントロールをしている場所は小腸にある



んです。腸管免疫機構(GALT)というんですけど、寄生虫がいると、この免疫のコントロールセンターの働きがじゃまされるので免疫がうまく働かないのです。犬や猫では病気の予防注射(ワクチンと言いますね)をする前は必ず寄生虫の駆除をします。それというのも、寄生虫をやっつけて腸管免疫機構がきちんと働くようにしておかないと、ワクチンを打っても免疫が上がらないことがあるからなんです。これは牛さんでも同じなんです。導入時にヘモフィルスや肺炎、クロストリジウムなどの予防注射をする農場がありますが、寄生虫の駆除をしておかないと効果が上がっていない可能性もあるんです。逆に、寄生虫の駆除をしておくと、元々の免疫や体力の低下を防ぐことができるので、それだけでも病気にかかるのを防ぐ効果が期待できます。(もちろん肺炎や突然死が多発する農場の場合は、必ずワクチンも打っておきましょうね。)

寄生虫が悪さをするのは免疫に対してだけじゃありません。オステルターグ胃虫という虫は、第四胃に寄生してタンパク質の消化をじゃまします。第四胃では塩酸と消化酵素を分泌します。消化酵素は塩酸と反応して初めてタンパク質を消化できるようになるのですが、この虫は胃液の中の塩酸を出せなくしてしまうのです。オステルターグ胃虫がいると、第四胃の変位(腸捻転みたいなものです)も増えます。また乳頭糞線虫などの寄生虫は、小腸に寄生してアミノ酸の吸収をじゃまします。タンパク質を消化してできたものがアミノ酸ですよ。タンパク質をきちんと消化してアミノ酸にして、それを全部吸収できたら、牛さんもぐんぐん成長します。でも、寄生虫によってタンパク質の消化や吸収がじゃまされると、それだけ成長は悪くなってしまいます。以前コンサル先で、導入時の寄生虫の駆除をしたところ、それまでに比べて増体率が8%も増えたケースがあります。

さて、これまでの事柄を考え合わせて導入時の衛生対策を立ててみましょう。まず導入時のストレスを防ぐこと。住み慣れた場所からの移動の問題はどうしようもないので、導入後の群編成ストレス(群れを作るときにけんかしたりするときのストレス)を防ぐことを考えましょう。それには導入した子牛を安心させてあげること、それから群れを速やかに作ってあげることです。まずはあなたが優しく接してあげること。あ、笑ったでしょ？ほんとですよ、ウソだと思ったらやってみてください。それから、「軍隊飯」というのをやってみませんか？導入してから一週間くらい、エサを与えてから10分間で残ったエサを全部取り上げちゃうんです。そうすると、強い牛が弱いものイジメをする余裕がなくなります。なにしろ10分間では必死で食べないとお腹いっぱいになりませんからね。強い牛にいじめられなくなりますから、弱い牛もなんとか必死で食べられるようになります。お腹がいっぱいになると、ゆっくり座ってにどがみしながら心も満たされて平和な気持ち。穏やかな群れができあがる、と言うわけです。

次に寄生虫の駆除ですね。これは簡単です。背中にかけるだけのいい薬があります



からね。イベルメクチン系のものもいいと思います。このお薬は、線虫という虫をやっつけてくれます。ただしコクシジウムには効果がありませんから、同時にエクテシン液というコクシジウムを殺す薬を同時に飲ませましょう。導入した子牛はいろんな寄生虫を持ち込みますから、導入時、すぐに駆虫した方がいいですね。

次にビタミンAの補正です。今の子牛は産地や生産者によって、血液中のビタミンAのレベルに大きな差があります。導入時の血中ビタミンAが低すぎる子牛は、一番たくさん食べてほしい肥育中期にビタミンA欠乏に陥ってたくさん食べてくれません。これではサシなんかはいるはずもありません。肥育中期はビタミンAを打ちたくない時期なので、ビタミンAが不足していると解っていても給与できない人が多いんです。そういうことを防ぐ意味でも、ビタミンAを給与しても問題のない導入時にビタミンAを補っていただいた方がよいのです。でもいったいどのくらいビタミンAを打ったらよいのでしょうか？僕は、一般の農場ではフォルテという注射を夏場は3ml、冬場は1ml筋肉注射するようにしています。心配な方や、前期の飼料のビタミンAが高い場合は、導入した子牛の血中ビタミンAを測定してから獣医さんと相談してみましよう。

あと抗生物質の投与もやっておいたら安心です。寄生虫のところでもお話しましたが、子牛はいろんな農場からいろんな寄生虫だけでなくいろんなばい菌も持ち寄ります。導入の時に持ち込んだばい菌を1回やっつけておくと、感染の危険はかなり減りまますからね。

さていままでの衛生対策をまとめると、導入時に1:背中に寄生虫の薬をかけてコクシジウムの薬を飲ませる、2:ビタミンAを注射で補正する、3:抗生物質を打つ、の3つです。かんたんでしょ？これで子牛の危険はかなり防ぐことができますから、あとは子牛に優しく声をかけることと、軍隊飯ですみやかに群れを作ってあげましよう。

肺炎が多い農場では肺炎5種混というワクチンがあるので打つとよいでしょう。ただし、このワクチンを打つときは、抗生物質も同時に打っておきましょうね。ワクチンを打つと一時的に体力が低下してばい菌に弱くなるからです。

ここまでやっておけば一安心。あとは肥育に向かってばく進ましよう！来月からやっとな肥育の仕方だよ。どうしよう、もう7回も連載してるのに。(しかも今月もページオーバー。ABさんごめんね。)

